

OPINION

中部経済新聞

前回、日本の人々が仕事に取り組む様子を見て驚いたと書きました。これまで成田空港ほど組織化された空港を見たことがありません。ボランティアが人々を税関、荷物受け取り場所などに向けて案内していました。通常時にこの

ナビゲーター

ようなガイドが動いているのを見たのは初めてです。

近隣の都市で何か特別なイベント、例えばオリンピックが開催されている際には普通かもしれません、この水準でお世話がなされるのは驚異的で、ボランティアの年齢についてはさらなる驚きが

日本への期待
世界各地から其
130

日本の人々にとっての職、仕事

ありました。すべて高齢の、第一線を退職した人々だったのです。日本で最初に私が会い、ホテルまで送ってくれた受入担当者も、高齢の方でした。ご当人と話す時間があがり、既に定年を迎えていること、そして楽しみながらこの仕事をしていることを聞きました。

ほぼ1カ月におよぶ滞在の中に、人々の生活、習慣の特色を観察しました。最も重要なのは他人に対する敬意を示すことで、街中や混雑している場所でも人々は親切です。生

アゼルバイジャン(下)

産現場を訪問中も、仕事に対する特別な姿勢を見ることができました。みんな作業に集中し、自分自身の仕事にプライドを持っていました。私が訪れた企業を保有するのは、すべて創業者一族でした。また、そのほとんどで事業を始めたのは創業者家族の一員です。事業の所有権は長期間にわたり引き継がれ、これまで私が見てきたものとは正反対です。

ほかの国々では、事業売却が利益になると判断できる最初の機会が訪れたタイミングで、それまでの事業を売却し、より利益が見込める分野に移っていくのが普通です。それに対して日本では、事業と仕事は所有者の人生の一部として完全に組み込まれているように見えました。私自身のアゼルバイジャンでの経験に照らせば、通常若い世代の人々は、仕事を自らの活動、生活のための経済的手段としてみなしています。突き詰めれば、彼らにとっての仕事、職業とは、家族と社会的生活を維持するために金銭的收入を得るための手段に過ぎないということになります。

日本では、仕事そのものがより重要な意味を持つっており、人々は同じ職に長くどまり、やがて人生と分離できない「不可分」なものとなります。付け加えると、残念ながら街中で英語もしくはほかの外国語を話す人が少なく、言葉の壁があったので、人々と自由に話すまではいきませんでした。日本語についての知識がないと、一人で食事を注文したり、日常の買い物をするのは大変です。それでも

日本の人々は、外国人に接する機会があれば、友好的だったと言えます。生活は非常に規則正しく流れているように見え、時に退屈に感じるのではないかと思うことがないとは言えませんでした。...

【ルスタム・タヒロフ、リム中産連】

※(リム補足)

日本滞在中、訪問先への移動の合間に話したところでは、タヒロフ氏は手当たり次第に読書に励む知識欲旺盛な人物だった。帰国前に発表する行動計画のテーマとしては、ヘーゼルナッツを取り上げ、近隣国を含めた流通上の諸問題を指摘しつつ、検討していたことが思い出される。

(月曜日に掲載)